



環境研究総合推進費 戦略的研究開発領域 [S-16]

## アジア地域における 持続可能な消費・生産パターン定着のための 政策デザインと評価 (JPMEERF16S11600)

研究代表機関

東京大学

研究代表者

東京大学工学系研究科

平尾雅彦

研究実施期間

2016年度～2020年度



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY



National Institute of  
Advanced Industrial Science  
and Technology  
AIST



R  
RITSUMEIKAN  
UNIVERSITY



NIES



KOBE  
UNIVERSITY



IGES  
Institute for Global  
Environmental Strategies



KYUSHU  
UNIVERSITY



UNIVERSITAS NANZAN  
NANZAN  
UNIVERSITY  
HOMINIS DIGNITATE



Keio University  
CALAMITY GLADIO FORTIOR  
1858



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY  
UNU-IAS



# 1. 研究背景

- 2012年：リオ+20で「持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み（10YFP）」の実施採択
- 2015年：持続可能な開発のための2030アジェンダを採択。目標12は、「持続可能な消費と生産パターンの確保」
- アジアでは、この間も経済成長は著しく、温室効果ガス排出や資源消費といった環境影響も増大
- いかなる消費と生産の構造を構築するのかという点に目を向けた施策の検討が必要
- 効率性アプローチに加え、充足性アプローチが必要



## 2. 研究開発目的

- アジア地域におけるSCPパターンへの転換と定着に係る課題
  - 消費と生産の関連性の強化
  - 多様なステークホルダーの活動による実現方策
  - 効率性追求に加えて充足性向上への転換を促す政策
  - SDGsからみたSCPのガバナンス
- への政策に寄与する学際的研究を遂行
- 様々な分野の異なる視点のアプローチを統合し、政策立案のためのフレームワークを構築



### 3. S-16全体目標

- アジア地域における持続可能な消費と生産（SCP）パターンへの転換と定着に係る課題を総括する。
- これらの課題に対して、全テーマからの様々な分野の異なる視点の成果を統合し、消費と生産の関連性の強化や充足性向上への展開等を指向するSCPパターン定着のための政策の方向性と要素項目ならびに政策協働デザインのフレームワークを提示する。フレームワークに基づく協働デザインの試行等により、今後のアジア地域に必要なSCP政策デザインと評価の知見を政策提言として示す。
- 本プロジェクトの遂行を通して、日本を含むアジア各国のSCPパターンへの転換政策に貢献する研究グループやネットワークとの連携を確立する。この連携を通して、プロジェクト成果をアジア地域の研究者・政策立案者と共有する。
- アウトカムとしての目標は、日本を含むアジア地域の政策立案者が、SCP政策を立案する際に、このフレームワークが活用されることである。



# 3. S-16 テーマ構成と目標

## テーマ1 消費と生産の関連性を強化した政策デザインによる

### 温室効果ガス排出抑制と資源循環方策

(東京大学：平尾雅彦)

- アジア地域における消費と生産の関連性強化における課題とその課題を解決するために必要な方策を示す。このために、設計-生産-循環一貫型のアジアの持続可能な消費と生産シナリオを提示し、消費および生産それぞれへの介入施策を提示する。

## テーマ2 多様なステークホルダーの活動・原動力に根ざした

### アジアの消費・生産パターンの転換方策

(国環研：田崎智宏)

- ステークホルダーの観点と実態を取り入れ、持続可能な消費と生産（SCP）に向けてアジアの消費・生産パターンを改善・転換する方向性とそのための具体方策を提示する。

## テーマ3 アジアにおける資源環境制約下のニーズ充足を目指す

### 充足性アプローチへの政策転換

(IGES：堀田康彦)

- 資源環境制約の元で、社会全体の福利（well-being）を損ねることなく充足性を向上し、アジア太平洋地域を念頭にエネルギー・資源消費総量の抑制（特に再生不可能な資源消費の抜本的な削減）に貢献する政策デザインのフレームワークと方向性の提言を行う。

## テーマ4 SDGsからみた持続可能な消費と生産のガバナンス

(慶應義塾大学：蟹江憲史)

- SDGsからみたSCPのガバナンスをテーマとして、SDGsがアジア地域や日本も含めた各国の国内政策、制度設計等におよぼす影響を明らかにするとともに、SCPを日本を含むアジア地域に定着させるための政策及び企業活動の課題と可能性を示す。



# 4. 研究開発内容：テーマ構成と連携

(設計-生産-循環一貫型SCPシフト・消費行動変容への方策)  
**1**

**2** (アジアにおけるライフスタイルの特徴)

**1** (消費と生産の連携パターン)

テーマ2：多様なステークホルダーの活動・原動力に根ざしたアジアの消費・生産パターンの転換方策

**5** (充足性アプローチ政策類型)

**2** (コミュニティ活動とライフスタイルの特徴、アジア型の環境経営)

**3**

テーマ1：消費と生産の関連性を強化した政策デザイン

統合タスクフォース

テーマ3：アジアにおける資源環境制約下のニーズ充足を目指す充足性アプローチへの政策転換

**5** (SCP政策の方向性)

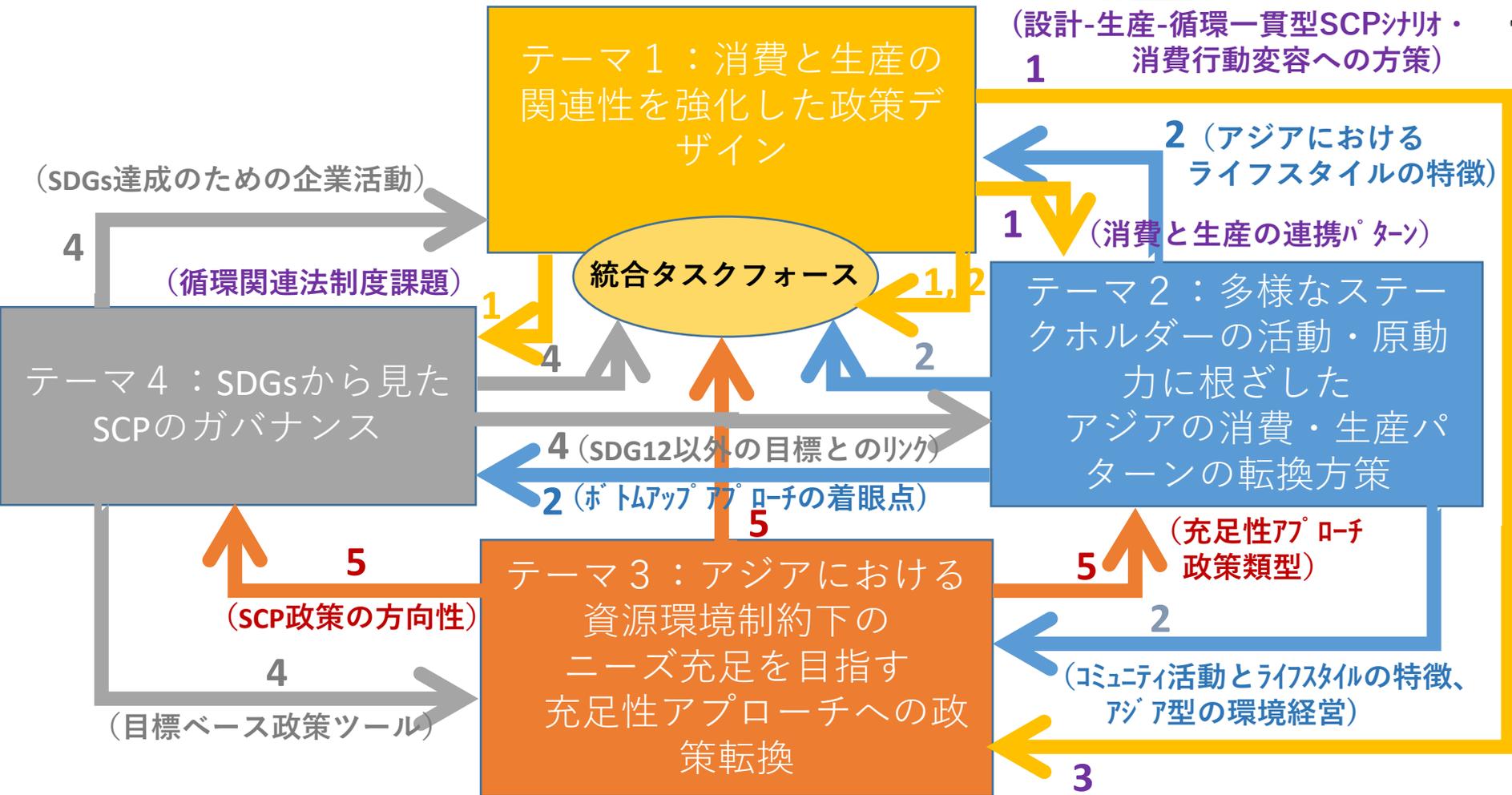
**4** (目標ベース政策ツール)

テーマ4：SDGsから見たSCPのガバナンス

(循環関連法制度課題)

(SDGs達成のための企業活動)

**4**



個別目標と連携項目(1~4を5に反映し、フィードバックをかける)

1. エネルギー・資源利用効率改善に資する製品/製造/循環システム
2. ライフスタイルの類型化とリープフロッグの方向性
3. 国際的なマクロレベルでの分業のあり方
4. SDGsから見たSCPのアジア地域向けの中長期ビジョン
5. 政策パッケージとその効果分析・評価



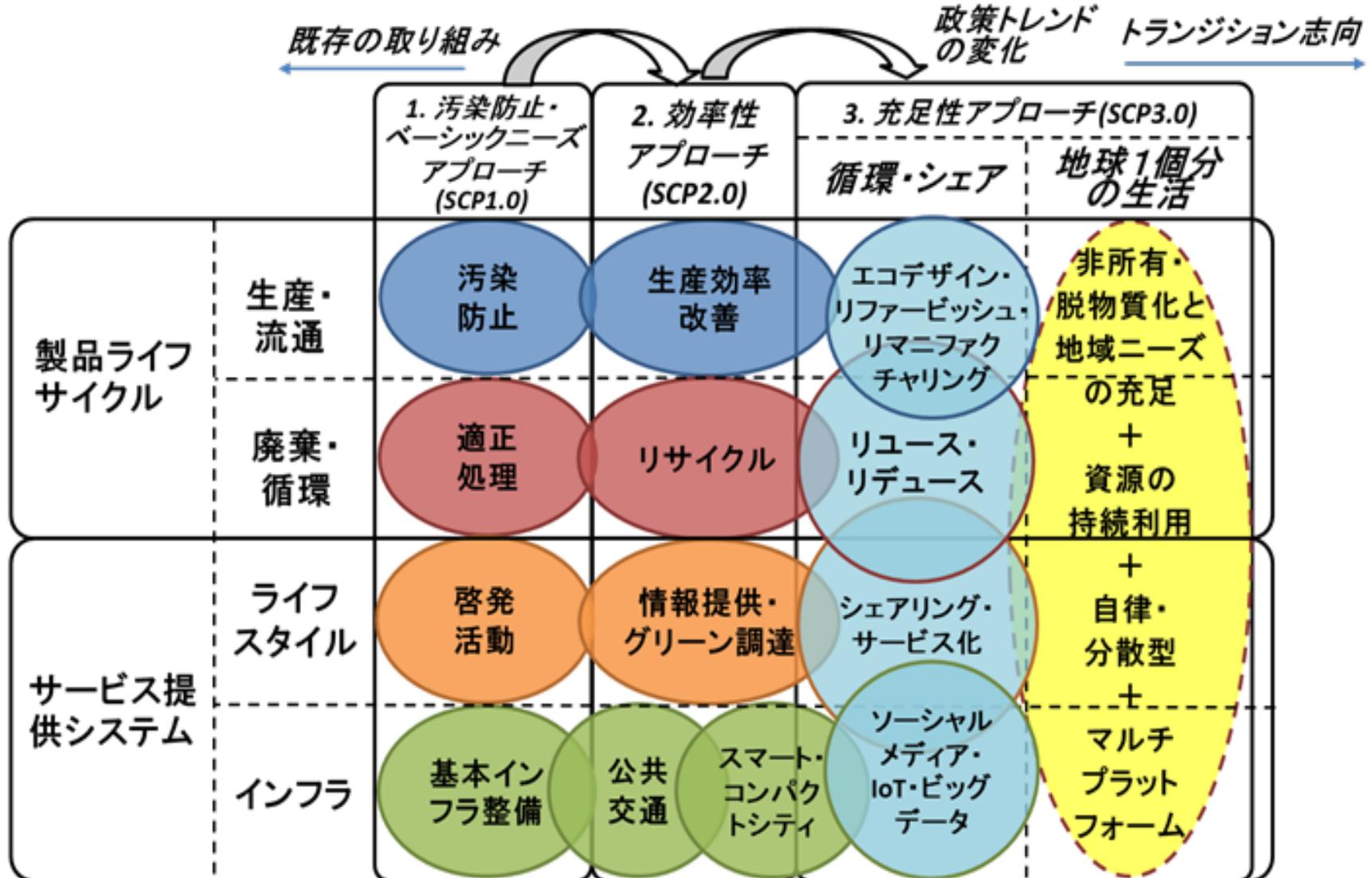
## 5. S-16全体(統合タスクフォース)の成果

1. アジア地域におけるSCP政策設計のフレームワーク
2. SCP政策事例の収集・7分類に類型化・SCP政策が導出される入り口として13の実現機会
3. SCP政策を立案・実施するための指標・ツール・基本データベース
4. 政策立案の基礎となるアジア地域における新たなファクト情報
5. アジア地域のSCP研究者のネットワークにおける日本の貢献
6. 国際的な持続可能な消費と生産パターンへの転換のための取り組みへの貢献



# アジア地域におけるSCP政策設計のフレームワーク

## SCP政策領域の拡大





# アジア地域におけるSCP政策設計のフレームワーク 持続可能な消費と生産政策の3段階

## 発展段階が異なるアジア

- 3バージョン全ての段階の戦略的実施が必要



## SCP政策の進化

### ウェルビーイング



## SCP政策への要請

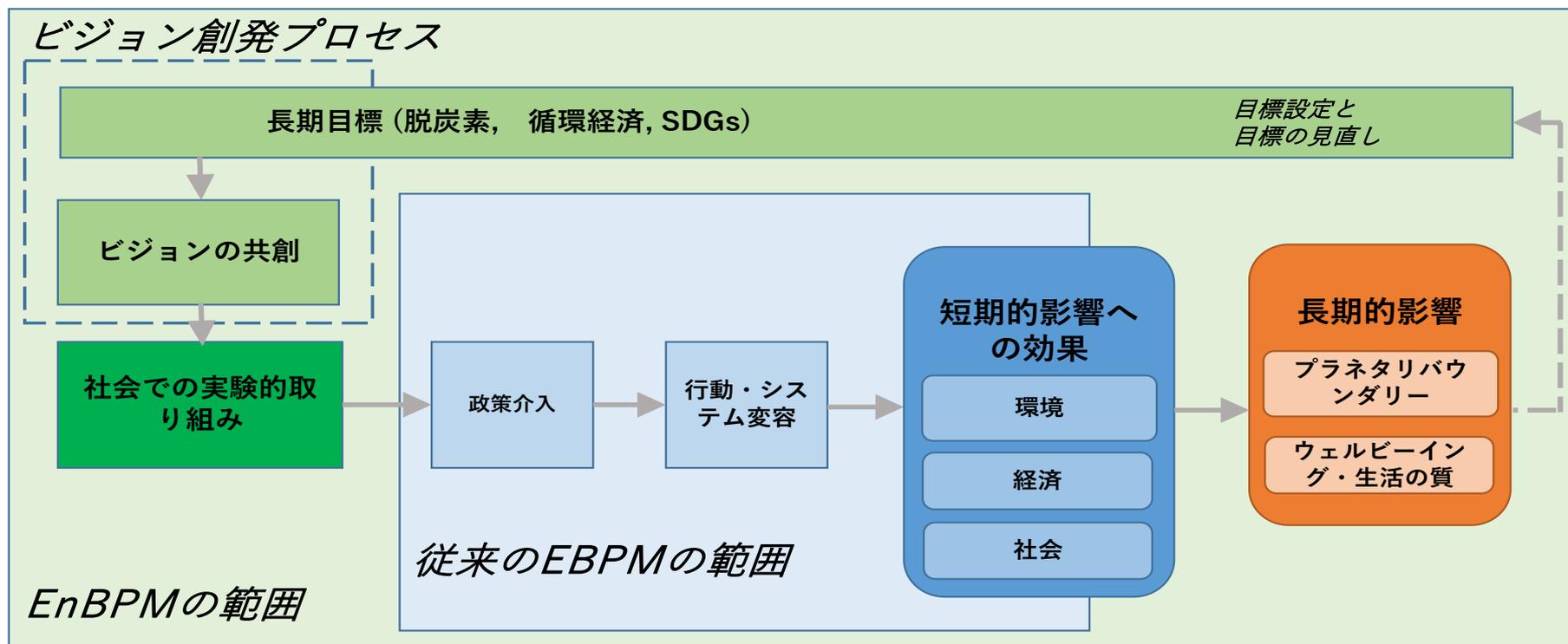
- ビジョンに基づいた目標ベースの政策設計
- 多様なステークホルダーの視点



# ビジョンに基づいた目標ベースの政策設計

## ビジョン創発型政策形成

### (Envisioning-Based Policy Making)



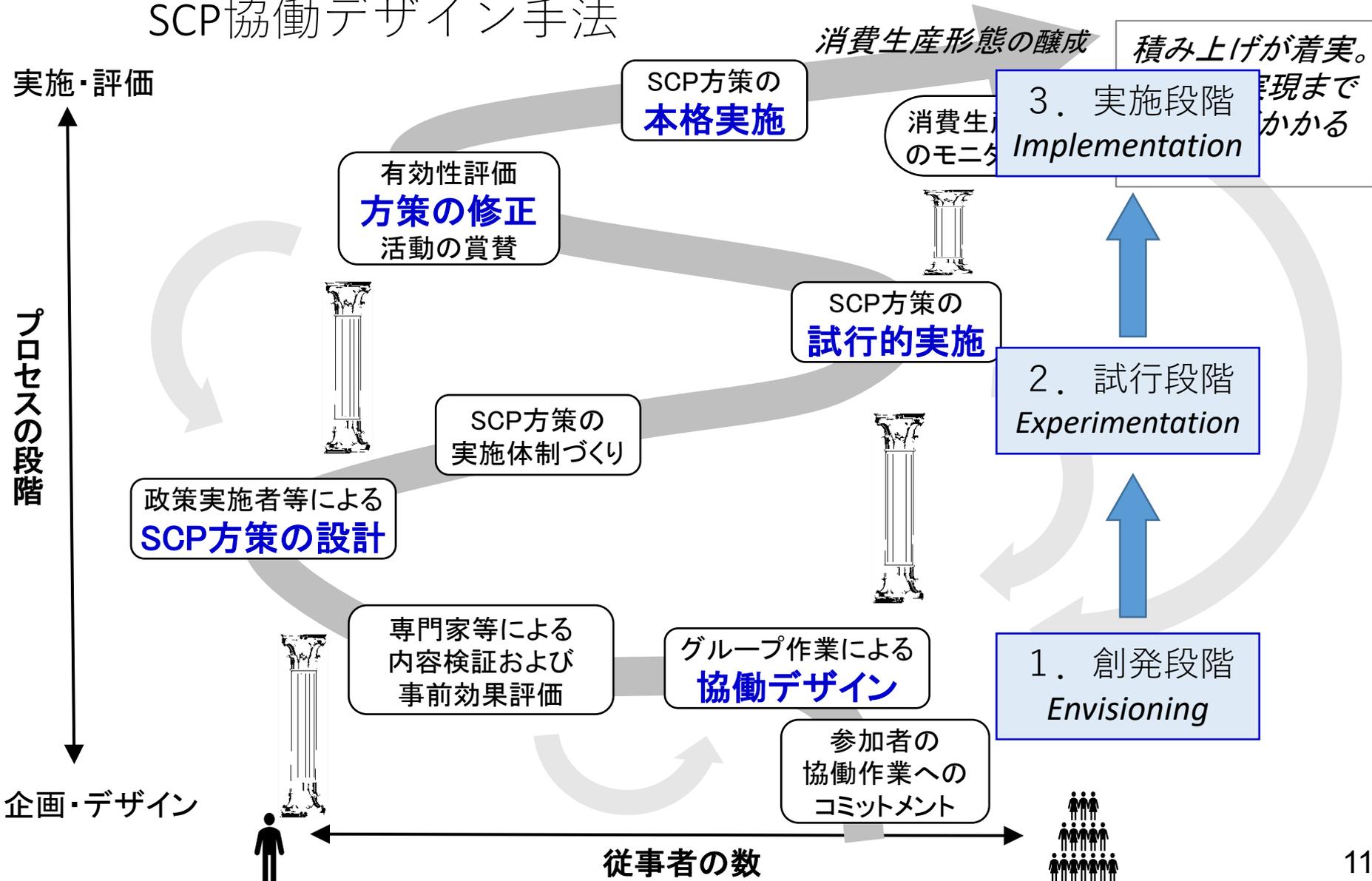
□ 政策プロセスの各段階

○ 政策の結果、効果の測定



# 多様なステークホルダーの視点 転換型SCP政策の共創プロセス

## SCP協働デザイン手法





## 5. S-16全体(統合タスクフォース)の成果

1. アジア地域におけるSCP政策設計のフレームワーク
2. SCP政策事例の収集・7分類に類型化・SCP政策が導出される入り口として13の実現機会
3. SCP政策を立案・実施するための指標・ツール・基本データベース
4. 政策立案の基礎となるアジア地域における新たなファクト情報
5. アジア地域のSCP研究者のネットワークにおける日本の貢献
6. 国際的な持続可能な消費と生産パターンへの転換のための取り組みへの貢献

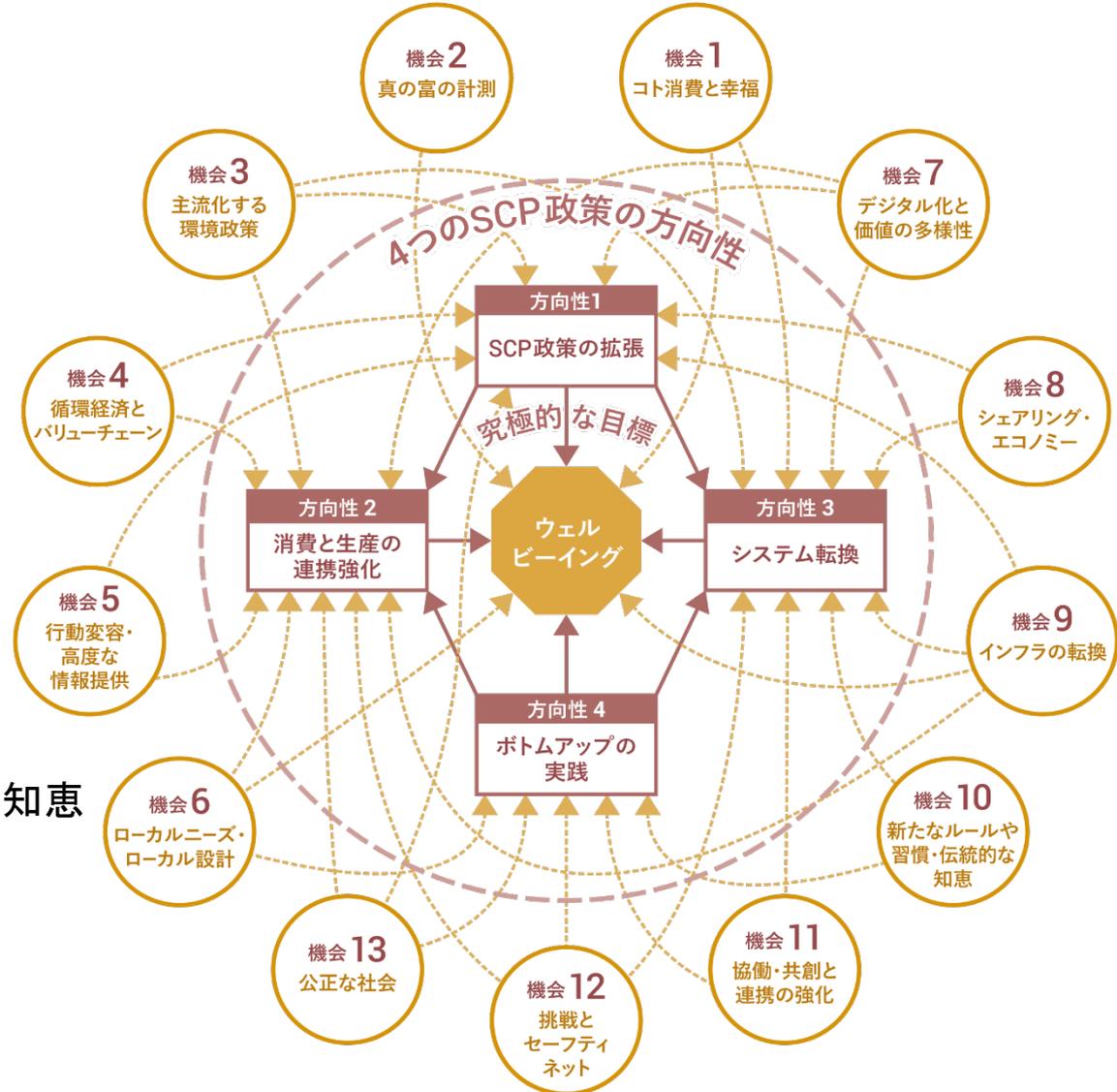


# 13のSCP機会

## (中間時からコロナを経験し更新)

1. コト消費と幸福
2. 真の富の計測
3. 主流化する環境政策
4. 循環経済とバリューチェーン
5. 行動変容・高度な情報提供
6. ローカルニーズ・ローカル設計
7. デジタル化と価値の多様性
8. シェアリング・エコノミー
9. インフラの転換
10. 新たなルールや習慣・伝統的な知恵
11. 協働・共創と連携の強化
12. 挑戦とセーフティネット
13. 公正な社会

### SCPに向けた13の機会





# アジアにおける SCPパターンと政策の具体的提案

テンプレート

機会○: \* \* \*

機会○: \* \* \*

機会○: \* \* \*

画像やイメージ図

画像やイメージ図

SCP政策もしくは  
パターン

新たなSCPパターンの特徴

全サブテーマから計43件の提案  
7分類に類型化



# 例：ローカル指向の製品設計

機会6: 地域のニーズを考慮した製品設計

機会3: 主流化する環境政策

機会2: 真の富

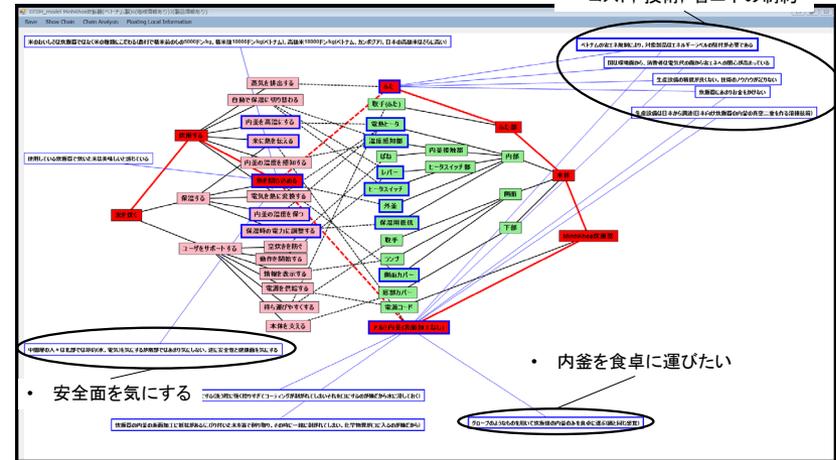
機会11: 協働・連携

地域の生活ニーズに合致するローカル指向の製品設計

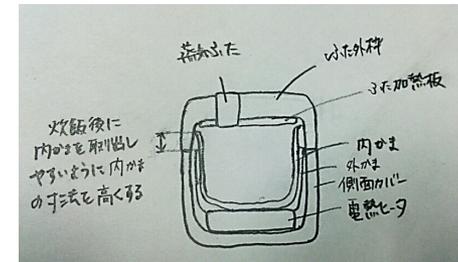


### ベトナム製品の拡張機能-構造分析

・ コスト, 技術, 省エネの制約



「安価」で「釜のままご飯を食卓に置く」ことができ「炊飯時の熱効率も良い」炊飯器





# 例： マルチステークホルダープロセス

機会11: マルチステーク  
ホルダーの協働

機会5: 行動変容

機会13: 公正な社会

目標からのバックキャストと  
多様なステークホルダーの参加



写真出典

上：外務省ツイッター

[https://twitter.com/SDGs\\_MOFA\\_JAPAN/status/1001768049702195200/photo/1](https://twitter.com/SDGs_MOFA_JAPAN/status/1001768049702195200/photo/1)

下：国連大学ウェブサイト

<https://ias.unu.edu/jp/news/news/stakeholders-develop-recommendations-for-revising-japans-sdgs-implementation-guiding-principles.html>

SCPに係るSDGs目標の達成から  
バックキャストした政策のマルチ  
ステークホルダープロセスによる検討

政府、自治体への提言





## 5. S-16全体(統合タスクフォース)の成果

1. アジア地域におけるSCP政策設計のフレームワーク
2. SCP政策事例の収集・7分類に類型化・SCP政策が導出される入り口として13の実現機会
3. SCP政策を立案・実施するための指標・ツール・基本データベース
4. 政策立案の基礎となるアジア地域における新たなファクト情報
5. アジア地域のSCP研究者のネットワークにおける日本の貢献
6. 国際的な持続可能な消費と生産パターンへの転換のための取り組みへの貢献



# SCP政策を立案・実施するための 指標・ツール・基本データベース

- 社会全体の福利を測定するための新国富 (**inclusive wealth**) 指標
  - 社会関係資本への投資が地域経済の福利向上に便益があることを示す
- 製品単位での正味充足度指標
  - 製品が対象地域の文化、歴史、気候、政治、制度などの要因に依存するニーズ充足手段としてのサティスファイアを介して充足性を向上させる
- 拡張機能・構造マップ(**EFSM**)と設計案評価のための**Mixed Prototyping**環境を用いた地域指向製品設計支援手法
  - マップと手法を組み合わせ多様な地域情報を製品設計に活用
- **SCP協働デザイン手法**・**SCP発想カード**
  - 強制発想法で消費生産形態へのアイデアを発想
- 消費者がライフサイクル思考を学ぶためのボードゲーム
  - 持続可能性の鍵となる問題をカバー
- 設計-生産-循環一貫型の**SCPシナリオ作成手法**
  - フォアキャストリングを用いたなりゆき (**business-as-usual; BaU**)シナリオの作成とバックキャストリングを用いた**SCPビジョン・シナリオ**の作成を組み合わせるアプローチ



## 5. S-16全体(統合タスクフォース)の成果

1. アジア地域におけるSCP政策設計のフレームワーク
2. SCP政策事例の収集・7分類に類型化・SCP政策が導出される入り口として13の実現機会
3. SCP政策を立案・実施するための指標・ツール・基本データベース
4. 政策立案の基礎となるアジア地域における新たなファクト情報
5. アジア地域のSCP研究者のネットワークにおける日本の貢献
6. 国際的な持続可能な消費と生産パターンへの転換のための取り組みへの貢献



# フィールド調査とアンケート調査 によるファクト情報

ー これまでは定量的にはなかった情報

## 調査例

- タイ、ベトナム、ミャンマーにおける普段の暮らしと世帯内のエネルギーを消費する家電・機器の所有・使用状況
- タイとベトナムの企業の環境経営実態
- 日本、ベトナム都市部、農村部での消費と幸福度の関係
- 日本とタイにおける洗濯機・コインランドリー使用の意識
- アジア5カ国のリマン企業の実態



## 5. S-16全体(統合タスクフォース)の成果

1. アジア地域におけるSCP政策設計のフレームワーク
2. SCP政策事例の収集・7分類に類型化・SCP政策が導出される入り口として13の実現機会
3. SCP政策を立案・実施するための指標・ツール・基本データベース
4. 政策立案の基礎となるアジア地域における新たなファクト情報
5. アジア地域のSCP研究者のネットワークにおける日本の貢献
6. 国際的な持続可能な消費と生産パターンへの転換のための取り組みへの貢献

# 国際連携による貢献



環境省 戦略的研究開発領域課題 (S-16)

## PECoP-Asia

Policy Design and Evaluation to Ensure Sustainable Consumption and Production Patterns in Asian Region



1st Workshop on Policy Design Research for SCP, (Bangkok) October 18-21, 2016



UN HLPF (NewYork) July 18, 2018



SCP co-design workshop (Bangkok) October 21-



APRSCP

**15th Asia Pacific Roundtable for Sustainable Consumption and Production**

**Webisode 4**

MAY 11, 2021 Tuesday 2 PM – 5 PM MANILA TIME (GMT+8)

**"Facilitating Transition to Sustainable Lifestyles"**

Co-organized by APRSCP, IGES, and PECoP-Asia(S-16)Project

**Opening / Closing Remarks**



**Prof. Anthony SF Chiu**

- De La Salle University
- Conference Chair of 15th APRSCP

**Keynote Presentation**



**Dr. Tomohiro Tasaki**

- National Institute of Environmental Studies, Japan
- PECoP-Asia (S-16 Project)

**Closing Remarks**



**Mr. Noer Adi Wardoyo**

- Ministry of Environment and Forestry, Indonesia
- President, APRSCP

**Presentations**



**Ms. Janet Salem**

UN ESCAP



**Ms. Caixia Mao**

Institute for Global Environmental Strategies



**Dr. Chen Liu**

Institute for Global Environmental Strategies



**Dr. Chuthatip Maneepong**

EARTH Foundation

**Roundtable and Open Discussion**



**Dr. Atsushi Watabe**

Institute for Global Environmental Strategies



**Mr. Togo Uchida**

Director, ICLEI-Japan



**Mr. Dwayne Appleby**

Institute for Global Environmental Strategies



**Dr. Yusuke Kishita**

Associate Professor, University of Tokyo, Japan



**Ms. Ara Kusama**

Youth Years Country Lead, Ashoka Indonesia



**Dr. Monique Retamal**

University of Technology in Sydney

**Register here!**

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_TR47LiVCQH6O2Izagq3r1Q](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_TR47LiVCQH6O2Izagq3r1Q)



**Event Chair: Dr. Yasuhiko Hotta**

- Institute for Global Environmental Strategies
- PECoP-Asia
- Board Member of APRSCP

Realtime Update: [www.facebook.com/APRSCP](http://www.facebook.com/APRSCP)

More details at [www.aprscp.net](http://www.aprscp.net)

1. Webisode I UN  
Green Recovery and Beyond in Asia Pacific through SCP
2. Webisode II Switch-Asia  
National Action Plans On Scp, Drivers For Green Recovery
3. Webisode III GIZ  
Policy instruments for upstream Circular Economy
4. Webisode IV **S-16/IGES**  
Facilitating Transition to Sustainable Lifestyles



## 5-2. 行政等が既に活用した成果

- 1 2018年7月の国連のSDGsに関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）のサイドイベント開催。政策ブリーフの発表
- 2 令和2年版環境・循環型社会・生物多様性白書に成果が引用
- 3 2019年日本開催G20の科学者シンクタンクプロセスであるT20タスクフォース3「気候変動と環境」の公式政策ブリーフ「Six Proposals for Future Policies towards Circular Economy and Society」を作成し、提言に反映
- 4 2019年の『SDGs実施指針』改訂にあたって、本プロジェクトの成果が活用
- 5 「省エネ家電等マーケットモデル事業」検討会座長として助言を行い、省エネ家電買換促進方策のとりまとめに貢献
- 6 サプライチェーン向けのMFCAの規格（ISO14052）および中小企業向けのMFCAの規格（ISO14053）策定に貢献
- 7 2017年2月G7 meeting on Resource Efficiency 会議ステークホルダーパネル会議において、リマンの推進のための議論に貢献



# 6. 研究成果の発表状況

(1) 誌上発表	
査読付き論文	1 6 5 件
査読付き論文に準ずる成果発表	2 8 件
その他の誌上発表 (査読なし)	7 2 件
(2) 口頭発表 (学会等)	3 3 6 件
(3) 「国民との科学・技術対話」の実施	1 2 5 件
(4) マスコミ等への公表・報道等	6 4 件
(5) 本研究に関連する受賞	6 件
(6) 特許	1 件



(参考資料)



# 3. S-16サブテーマ体制

## テーマ1 消費と生産の関連性を強化した政策デザイン

サブテーマ (1) 消費と生産の関連性の強化のための政策デザイン (東京大学)

サブテーマ (2) 地域を指向したものづくりのためのサステナブル・デザイン (大阪大学)

サブテーマ (3) リマニュファクチャリングを中心とした持続可能な生産 (産業技術総合研究所)

サブテーマ (4) 効率性と健全性を追求した分散型循環生産シナリオ (立命館大学)

## テーマ2 多様なステークホルダーの活動・原動力に根ざしたアジアのCPパターンの転換方策

サブテーマ (1) ライフスタイルとアジアでのCPパターンの転換方策 (国立環境研究所)

サブテーマ (2) アジアにおける企業の環境経営モデルの展開と  
ステークホルダーによる導入支援方策 (神戸大学)

## テーマ3 アジアにおける資源環境制約下のニーズ充足を目指す充足性アプローチへの政策転換

サブテーマ (1) 充足性に関する政策デザインと10年計画枠組みのアジア実施に向けた国際連携  
(地球環境戦略研究機関)

サブテーマ (2) 充足性に向けた消費行動選択と産業セクターへの影響 (九州大学)

サブテーマ (3) 充足度達成条件に関する調査と分析 (南山大学)

## テーマ4 持続可能な開発目標 (SDGs) からみた持続可能な消費と生産のガバナンス

サブテーマ (1) SDGs実施にかかるグローバルガバナンスのあり方 (慶応義塾大学)

サブテーマ (2) 日本を含む国家・アジア地域・その他のレベルにおけるSCPを中心とした  
SDGsの策定と実施に関する国際比較 (国連大学)



# 「国民との科学・技術対話」の実施

- ISAP2016  
「持続可能な消費と生産：アジアでのSDGs実施に向けたステークホルダー連携への第一歩」 2016年7月
- 日本LCA学会・S-16共催 講演会  
「持続可能な消費・生産に向けたライフサイクル思考の役割」 2016年12月
- ISAP2017  
「SDGsへの取り組み：資源管理の視点」 2017年7月
- S-16主催 一般公開シンポジウム (オンライン開催)  
「アフターコロナの持続可能な消費と生産形態の確保に向けて」 2021年1月  
聴講者 250名以上

環境研究総合推進費【S-16】一般公開シンポジウム

## アフターコロナの持続可能な消費と生産形態の確保に向けて

2021年1月15日(金) 14:00-16:30  
Zoom Webinarにて開催

**共催:** 国立環境研究所、地球環境戦略研究機関

2015年に国連で採択された持続可能な開発のための17の目標SDGsは、これからの社会のあり方を指示するものでした。その採択から5年後に襲ってきた新型コロナウイルス感染症の拡大で、私たちの生活も経済社会の活動も否応なしに変革を求められています。本シンポジウムでは、アフターコロナの持続可能な消費と生産 (Sustainable Consumption and Production: SCP) 形態の確保に向けて、本当の豊かさとは何か、充足した生活とは何か、消費と生産は何をなすべきかを議論し、地域政策、公共政策、企業戦略のデザインのあり方を示していきます。

参加費無料  
要事前登録  
定員500名

<p><b>14:00</b> 開会挨拶 —— 平尾雅彦 (東京大学)</p> <p><b>14:10</b> 基調講演 —— Dr. Lewis Akenji, Hot or Cool Institute. "Sustainable Lifestyles and a Post-COVID-19 Society." 「持続可能なライフスタイルとコロナ後の社会」(同時通訳付)</p> <p><b>14:30</b> パネルディスカッション —— モデレーター・平尾雅彦</p> <p><b>コロナ後のSCP政策の方向と そのための13のエントリーポイント</b> 堀田康彦 (地球環境戦略研究機関) COVID19を受けて、改めて持続可能な消費と生産形態に向けた社会モデル、新たなビジネスモデルの構築が急務となっている。こうした観点から、SCP政策の今後の方向性とそのための13のエントリーポイントを紹介すると同時に、SCPの社会実装に向けた政策デザインのあり方について議論する。</p> <p><b>新冠指標と地域政策立案への活用</b> 馬奈木俊介 (九州大学) GDPはマクロ経済指標として重要な役割を果たしたが、20世紀後半からの環境問題や福祉・保健への意識の高まりに伴い、経済の総合的な豊かさを測るうえで限界があることが指摘されてきた。国連・新冠指標がSDGs評価として大きな注目を浴び、実際の政策利用へ普及し始めている。その実際の活用方法を含めて議論する。</p> <p><b>地域性と充足性を考慮したプロダクトデザイン</b> 小林英樹 (大阪大学) 持続可能な消費と生産の鍵の一つは「ニーズの充足」であるが、その最適解は対象地域によって異なる。こうした背景から、私たちはMax-Neefのニーズ枠組みを取り入れた生活圏アプローチを提案し、日常生活で使用する製品群と充足性の関係を評価する指標を開発した。また、生活文化の違いを記述した地域情報を利用する設計支援システムも開発した。ベトナムを対象としたこれらの事例研究を紹介する。</p>	<p><b>コロナ時代の消費シェアリングが果たす役割</b> 天沢逸里 (東京大学) 消費活動を所有から使用へと促すシェアリングエコノミー。コロナ禍におけるシェアリングでは、一部が衰退するなか、需要増が報告されたサービスも存在する。本発表では、これからシェアリングを持続可能な消費と生産形態につなげるために、シェアリングが果たすべき役割をこれまでの研究事例と共に議論する。</p> <p><b>コロナの先のSDGsと持続可能な消費と生産</b> 笠江憲史 (慶應義塾大学) 新型コロナウイルスは、現代社会がいかに持続不可能であったかを明らかにした。サプライチェーンは途切れ、経済の停滞の大きな原因となった。視点を変えれば「変革」が必要不可欠であるSDGsの達成に向けて、今こそ千載一遇の機会が訪れているという見方もできる。ファッション業界や食品業界などSDGs達成へ向けた変革の機運は見られ始めており、この動きを加速させるには、SDGsを前面に打ち出した公共政策と民間の戦略とが重要になる。</p> <p><b>持続可能な消費と生産形態を共創する</b> 田崎智宏 (国立環境研究所) 持続可能な消費と生産形態を実現するために、消費側の取り組みと生産側の取り組みとに分けて、それぞれに改善を図っていくというアプローチがこれまでの主流であった。しかしながら、このアプローチは多様化した現代に適用するには限界があり、それを補うアプローチとして消費と生産を一体的に捉え、共に創り上げていくという発想が重要となる。本講演では、このような問題認識を説明するとともに、持続可能な消費と生産分野における共創アプローチの概要を紹介する。</p>
<p><b>16:00</b> 総合討論 (~16:30 終了)</p>	



# 開催後アンケートの意見例

## 回答65件中 97%が有益だったと回答

- 実践におけるアイデアをいくつか示唆いただきました
- 地域のニーズの違いを知ることができた
- コロナ禍という新しい視点で持続可能な社会を考えるきっかけを与えてくれた
- 将来の方向性を探るうえでの参考になった
- 今後、自治体として取り組んでいこうとしていることのヒントを得られた
- Well-being の大切さに改めて気づかされた
- 視野、視点が広がった
- コロナの状況で、消費と生産形態がどのように変わったのかを体系的に知る良い機会だった
- 既知の情報が多くあり、最新の学術研究に基づく内容を期待していたため、若干残念だった



# 国際連携による貢献

- 1st Workshop on Policy Design Research for SCP, October 18-21, 2016 (Bangkok, Thailand)
  - チュラロンコン大学と共催
- 2nd Workshop on Policy Design Research for SCP, October 23, 2017 (Melaka, Malaysia)
  - 13<sup>th</sup> Asia Pacific Roundtable for SCP (APRSCP) 2017併催WS
  - APRSCP会長・各国代表らと意見交換・ポリシーブリーフの取り纏めの合意
- UN HLPF サイドイベント July 18, 2018 (New York, UN HQ)
- 14th Asia Pacific Roundtable for SCP 2018 November 12, 2018 (Jakarta, Indonesia)
  - S-16から発表、APRSCP各国代表らとアジアからの発信の意義と今後の連携を合意
- 3rd Workshop on Policy Design Research for SCP, October 21-23, 2019 (Bangkok, Thailand)
  - タイ国立科学技術開発庁、チュラロンコン大学と共催
  - 初日にS-16主催 co-designワークショップ
- Follow-up Meeting for Thai SCP Policy Recommendations August 5, 2020 (Online)
- 15th Asia Pacific Roundtable for SCP (APRSCP) 2018 May 11, 2021 (Online)
  - S-16・IGES主催 Webisode4 “Facilitating Transition to Sustainable Lifestyle”
  - S-16 テーマリーダーが副会長に選任



# APRSCP次期会長からのメッセージ

IGES/S16 has been one of **the most credible partners of APRSCP** in developing and executing programmes and projects in the region. APRSCP wants to place on record its sincere thanks for your kind support in organising Webisode 4 during the recently concluded 15th APRSCP Conference. I am sure, **under your guidance and leadership at IGES**, we will be able to **deepen our collaboration further** to advance the economic competitiveness and shared prosperity in the region while safeguarding the environment. We, at APRSCP, would like to create necessary synergy between our activities to translate high level strategic thinking into high impact, local, implementable projects that bring transformative changes in the region.

Sanjay Kumar, IRSS

Central Railway, Ministry of Railway, Government of India



## 6. 学会等での主催・共催講演会・シンポジウム ・出版 (S-16全体で実施・企画)

- 環境科学会2017年会シンポジウム「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価」2017年9月15日 (北九州)
- EcoDesign2017 企画セッション“Sustainable Consumption and Production in the context of Asia” 2017年12月1日(台湾・台南)
- 第13回日本LCA学会研究発表会企画セッション「持続可能な消費と生産パターン定着に向けたライフサイクル思考の役割」2018年3月7日 (東京)
- 環境科学会2018年会シンポジウム「アジア地域における持続可能な消費・生産パターンへの転換のための政策提言」2018年9月11日 (東京)
- 日本LCA学会誌2019年4月号「持続可能な消費と生産 (SCP)」特集号(S-16企画・執筆・編集)
- EcoDesign2019 企画セッション“Sustainable Consumption and Production in Asian Context” 2019年11月26日(横浜)
- 日本LCA学会第15回研究発表会「持続可能な消費と生産パターン転換のための政策デザインとLCA」2020年3月12日(東京)
- EcoBalance2020 企画セッション“Opportunities and Challenges in Sustainable Consumption and Production” 2021年3月3日 (オンライン)
- Sustainability, Special Issue “Sustainable Consumption and Production Patterns: Policy Design and Evaluation” 2020年6月～2021年7月 (S-16が企画・編集)
- Global Environmental Research, Special Issue “Ensuring Sustainable Consumption and Production Patterns in Southeast Asia” 2021年秋発行予定 (国際環境研究協会・S-16が企画・執筆・編集)